

住民主体の 阿蘇市政を 目指して

第1回 市政報告会

報告会での質問の
一部を紹介します。

10月23日から11月22日にかけて、阿蘇市内11会場で行った。阿蘇市誕生から今までの執行状況や今後の方針について、市長はじめ全課長が出席し説明するという形で開催しましたが、お忙しい中にもかかわらず、多くのご参加をいただきました。今回の報告会を通して得た豊富なご意見は住民主体とする阿蘇市政に今後大いに反映させていただきたいと思えます。

なお、市政報告会の中で活発に市民の皆さまからご意見、ご質問がございましたので、一部を紹介いたします。

会場での発言をほぼそのまま掲載しておりますので、わかりにくい点もあるかと思いますが、今後市政に対してのご意見は、各所に設置している「意見箱」などで受付けておりますのでお気軽にご利用ください。

Q 行政全体の市政が変わったということだが、どのように市政が変わったのか話をしたい。

A 今まで各3町村は各々異なった行政執行をしていたと思いますが、私の考えは行政は皆さまに対して指導するものではなく、汗をかき誘導していくものだと思うっております。市の発足から1年8ヶ月間、皆さまからたくさんのお話を聞く中で思いは同じであり、資源を生かし、知恵を出して行かなければと思えます。また、財源は無くても別に財布をつくり、基金を設立して寄附を募る、こういったことも考えていかなければならないと思えます。《市長》

Q 定員適正化について、何年後にどのようにする計画か？

A 5年で50人を削減する計画があります。《総務課長》

Q 行革大綱の作成について市役所の内々で策定を行っているように思えてならない。甘くな

るのではないかと、外部の力、コンサル等を入れるべきではないかと。行政改革推進委員会のメンバー（有識者で編成）に外部からの専門家を招き、チェックが出来るよう進めて行きたい。《市長》

Q 行政にお願いしたいことは、若者が残る元気な町にしたい。企業誘致等の施策を望みます。農家は厳しい状況で、高齢者ばかりになっている。若者が残る環境対策・労働対策を願います。

A 若者が残ることが一番であり、経済活性化、人口増加につながります。労働人口が減ると地方は衰退しますので、働く場所の確保が必要で、菊陽・大津は道路網の整備が進み、企業誘致が進んでいます。阿蘇市においても富士プラント跡に環境にやさしい企業を誘致することができました。阿蘇は環境面においても素晴らしい財産があるので、今後、農業と観光がうまくリンクした新たな成長基盤を築く必要があると思えます。あとは実行すること、チャレンジが大事です。《市長》

Q (A氏)いかに子供を無事に学校に通学させることができるか、スクールバスが出来るかと全だと思えます。道路ができればみんなの気持ち・考え方も変わると思えます。

(B氏)若者の残る市づくり、私も同感です。しかし今の子供たちは、自分の家の田んぼの場所を知らない。小・中・高校の児童、生徒に「関心」を持たせることが大事だと思います。

A 子どもたちの安心・安全のためのご意見ありがとうございます。子どもたちの命を守ることは何より大事ですので、事故がないよう毎日祈る気持ちでおります。安全について地域ぐるみで支え、子どもたちが通学するときは皆さんで見守っていただきたい。通学バスが必要となれば検討しなければなりません。《B氏》のご意見については、ふるさとへの郷土を見つめ愛していくことは学校の総合学習で行っておりますが、部活動のように過熱しやすく、伸びや成果がすぐに分かるものではありません。土曜・日曜日の時間が部活やゲーム遊びに取られていて現状ですので、子どもたちが健全に成長できるように、地域・学校・家庭が一体となっていく時期に来ていると思えます。精一杯努力します。《教育長》

Q 阿蘇市ではいじめが発生しているか？

A いじめには大変気を使っています。教育委員会は2400人の命を預かっておりますので、校長を先頭に全校で取り組んでいます。朝から元気な顔でいるか、夕方

元気な顔でいるか、子供をしつかり見つけることがいじめを早く発見することにつながります。まだまだ不安もあるでしょうが家庭でもこのように取り組んでください。
《教育長》

Q 農業後継者がいない。60歳代から70歳代が働いている。耕地をどう維持していくのか、農業がなくなったら基幹産業は何が残るのか、阿蘇市がどうなるのか心配、市の基盤づくりをやってもらいたい。

A いろんな取り組みがあると思います。農業で生きていけるような独自の方策をつくっていく必要があります。《市長》

Q 3月と6月に議会の傍聴に行ったが、合併当時の要求が多い。赤水に農産物直売所、他にも文化ホール等、各地に約束しているのですが、阿蘇市の財政は厳しいとの認識であるから予算に見合うような形で、出来ないものは出来ないということで、約束の見直しが必要ではないか。

A 施設整備については、上物だけ造っても中身が大事なので地元には実績を作ってほしいと提案しています。又、文化ホールについては財政状況、費用対効果等、次の世代のことも考えながら対処したいと思います。《市長》

Q 一の宮町に本庁が移ってから、内牧は商店街も売り上げが減り街中を歩くのも寂しい限りである。内牧の商店街にとつてみれば死活問題である。何とかならないか、10年計画では遅すぎる。若者の流失対応はどのようなのか。

A 10年計画では遅すぎるというのは、ごもつともな意見です。現在内牧の方々が直面している問題であり、計画を早く実行に移したい。とにかく生活が良くなるよう行政が負担すべきものについては、負担を行っていききたい。

また、人口については、若者の働く場所の確保が必要であり、富士プラント跡地については企業誘致を行ったところです。今後は本田技研関連企業や、阿蘇という土地柄から、環境に健全な企業の誘致等を考えています。このことに伴い、今後は道路の整備等も考えて行かなくてはならない。《市長》

Q 阿蘇中央病院について、1億円の赤字でベッドがかなり空いていると聞いている。施設も老朽化し、救急病院として、よい医者を迎えて大津、熊本あたりから逆に患者がくるように整備されたい。

A 熊本大学附属病院副院長を座長に検討委員会を開き、問題点を洗い出し次の段階に入ろうとしています。患者に対する接し方や、

意識の改善、窓口開放、待ち時間中のひざ掛け毛布サービスなどの気配り等、必要なことは行っています。《市長》

Q 中央病院の院外薬局は不満の患者が多い。

A 厚生省の指導により薬の過剰投与を防ぐ等の目的で院外にしました。どこの薬局を利用してかまいません。医療分業は、国の方針であり、ご理解を賜りますようお願いいたします。《中央病院事務長》

Q 中央病院事務長にお願いしたい。誰に聞いても看護師が怠慢だと聞かすが、心温まる対応をとっていただければと思います。

A 職員自体が自ら変わらなければならぬ。職員にも親方日の丸的意識を捨てるように指導していきます。皆さんが病院に来ていただくように対応していきます。《中央病院事務長》

Q 黒川上水道は100%法に抵触している。市から何らの報告もない、遺憾である。議会も法違反であると認めている。

A ご心配おかけしております。この問題については水道所長が3ヶ月の停職処分を受け、前管理者から明言されることを待っていましたがそろそろ時期も過ぎたので尋ねてみたいと思っております。何らかの回答が得られると思いま

す。遅れていることをお詫びします。《市長》

Q 通称8メートル道路改修について、未来館東側墓地部分の急カーブはどうするのか。

A 墓地部分については説明会を行います。県の計画では直線にするようになっていきます。また、未来館前から成川までの区間は市によって、近々、補修工事を行う予定になっています。《建設課長》

Q 旧阿蘇町の中で山田地区のみ施設が何も無い。山田地区は昔から農業中心の地区であり、米の質等も良いことからライスセンター等を設立し農業の拠点としてほしい。

A 山田地区については、昔から農業中心に頑張っていることは認識しています。ライスセンター等の設置については、有識者との協議を重ねながら検討していきます。《市長》

Q 旧檜木野小跡地に温泉を平成16年に掘削し2年経過している。湯の花で管がふさがらないか心配。来年ごろあたりに整備することはできないか。

A どの程度までのものを作ったらいいか、また、維持管理費含め費用対効果を考えながら取り組みたい、もうしばらく時間をいただきたい。《市長》